

阿久和小学校・いずみ野小学校の 学校規模に関する説明会

令和2年11月17日（火曜日）14：00、19：00 阿久和小学校

令和2年11月18日（水曜日）14：00、19：00 いずみ野小学校

教育委員会事務局 施設部
学校計画課

次 第

- 1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状**
- 2 今後の取組**
- 3 質疑応答**

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆基本的な考え方

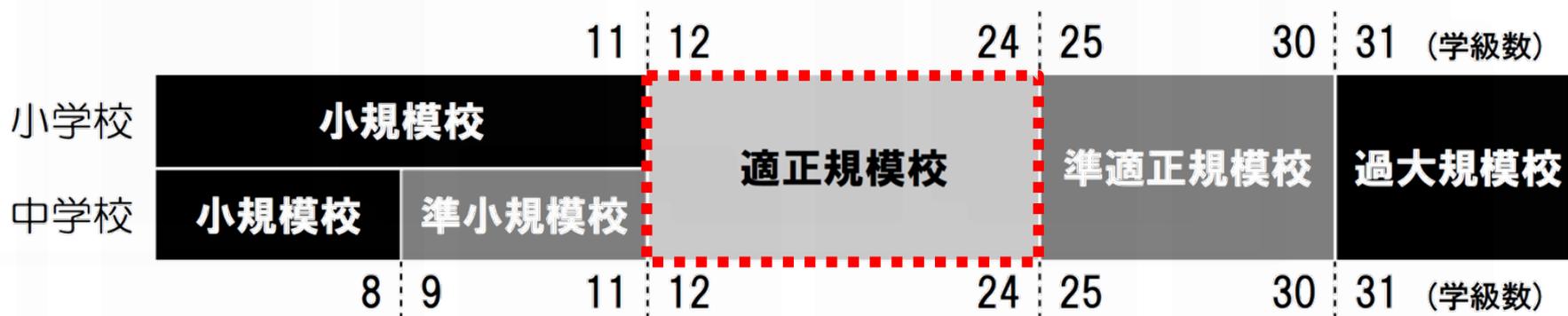
- ・横浜市では、主に児童数や学級数の観点から、通学区域や学校の規模を適正なものとする取組を進めています。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆望ましい通学距離の考え方

- ・ 小学校では片道おおむね 2 km以内 としています。

◆適正な学校規模



- ・ 小学校では 12~24 学級（各学年 2~4 学級）の学校を 適正規模校 としています。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆両校の児童数・学級数

【阿久和小学校】

令和2年5月1日現在、

一般学級の児童数 69 名、6学級（各学年1学級）の

小規模校で、今後も小規模校の状態が継続していく見込みです。

また、16名の児童が個別支援学級に通っています。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆両校の児童数・学級数

【いずみ野小学校】

令和2年5月1日現在、

一般学級の児童数313名、12学級（各学年2学級）の

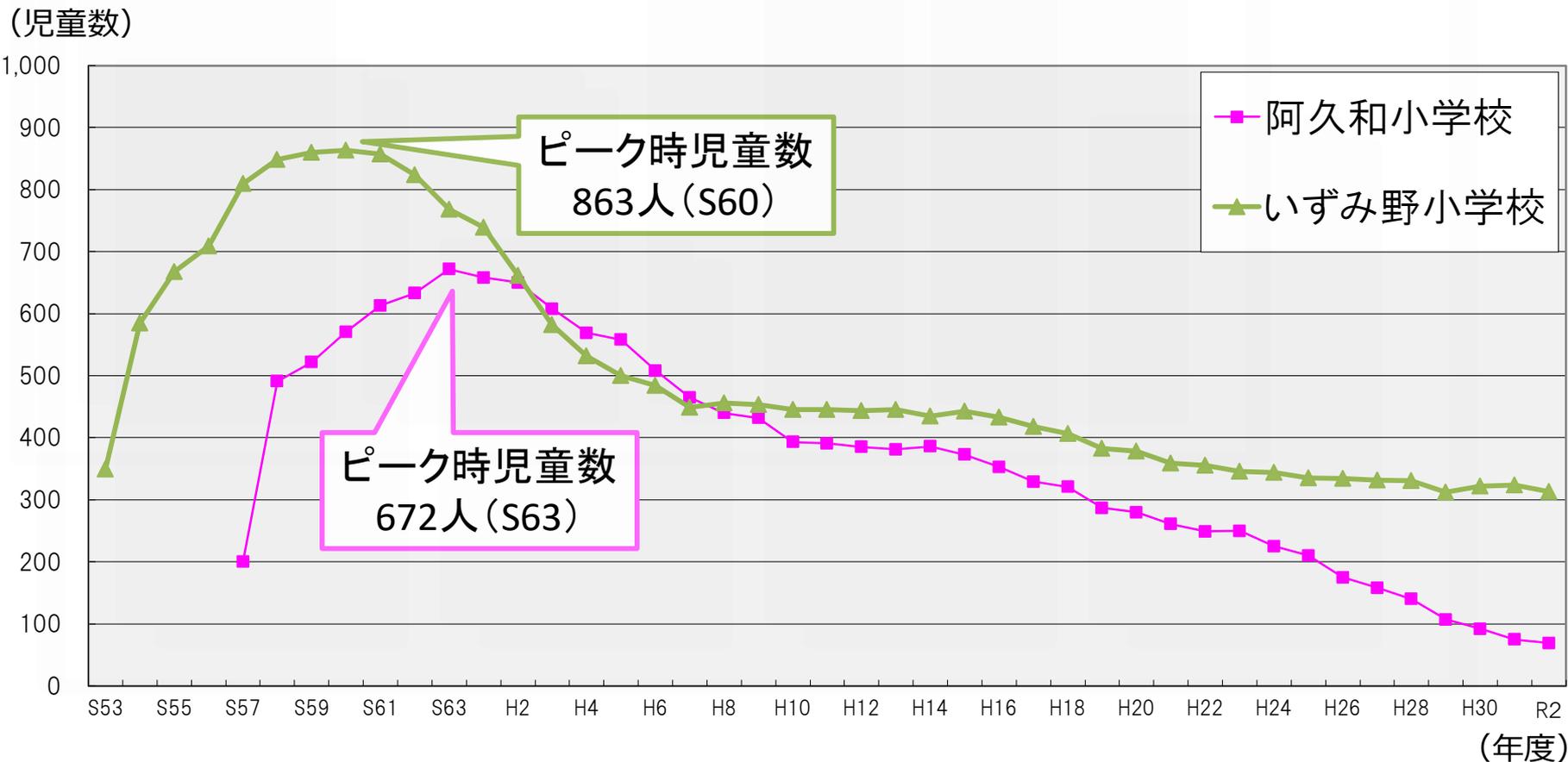
適正規模校ですが、令和8年度には11学級の小規模校となる

推計になっています。

また、8名の児童が個別支援学級に通っています。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆両校の一般学級児童数の推移



横浜市教育委員会調べ

【各年度の5月1日現在の実数値（一般学級のみ）】

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆今後の児童数・一般学級数の見込み

阿久和小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	普通 教室数
児童数(人)	69	73	68	72	76	76	69	17
学級数(学級)	6	6	6	6	6	6	6	

いずみ野小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	普通 教室数
児童数(人)	313	312	308	297	287	290	279	16
学級数(学級)	12	12	12	12	12	12	11	

《令和2年度》令和2年5月1日現在の実数値

《令和3年度以降》令和2年度義務教育人口推計による推計値

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆ 『小規模校』の特徴 [児童の視点から]

メリット

- 子ども同士よく知りあうことができ、人間関係が密になる。
- 縦割り集団行動などで、異なる学年の子ども同士の関係を深められる。
- 様々な学習活動の場で、それぞれが活躍する機会を持つことができる。

デメリット

- △ 多様な個性と触れ合える機会に恵まれにくく、人間関係を修復したり広げたりしていく力や社会性を育てる機会が限られる恐れがある。
- △ 運動会などで一定人数が必要な競技が行いにくくなる。
- △ 子ども同士の人間関係が固定化しやすい。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆ 『小規模校』の特徴 〔教職員の視点から〕

メリット

- 教職員が校内の子ども全員をより深く理解し、
個に応じた指導を行いやすい。
- 学校に対する保護者の理解や協力を得やすく、学校全体で主体的な対応
が取りやすくなる。

デメリット

- △ 授業内容や児童の指導について相談できる機会が減るなど、
特に、経験が浅い教員の負担が大きい。
- △ 一人の教員が担当する事務作業が多くなり、
学級経営、教科研究などに費やす時間が制約を受ける。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆ 『小規模校』の特徴 [PTA・保護者の視点から]

メリット

- 子ども一人ひとりの実態が把握しやすいため、
学校と家庭との連携が取りやすい。
- 保護者同士のつながりが強く、お互いに協力しやすい。

デメリット

- △ PTA会員が減少するために、役員が固定化しやすい。
- △ 学校行事などの面で、保護者の負担が大きくなる。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆学校規模の適正化の方法

小規模校の課題を解消し、子どもたちの教育環境を良くするとともに、学校の運営もしやすくするために…

通学区域の見直しを行い、学校規模の適正化を進めます。

1 阿久和小学校といずみ野小学校の現状

◆学校規模の適正化の方法

**通学区域の見直しが難しい場合や、
通学区域を見直しても小規模校の状態が解消しない
場合は…**

学校統合について検討を進めます。

児童数が増えると出来ること

◆ 児童数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ① 多くの友達や個性と出会うことができる

2 学習に関すること

- ① グループ学習が充実する
- ② 子どもの習熟度に合わせた学習が行いやすくなる
- ③ 子ども自身が目標設定をしやすくなる

◆ 児童数が増えると出来ること

3 行事に関すること

- ① 活動の幅が広がる
- ② 「大勢で作り上げる」経験ができる

4 先生に関すること

- ① 子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ② 学級間の連携ができるようになる

◆ 児童数が増えると出来ること

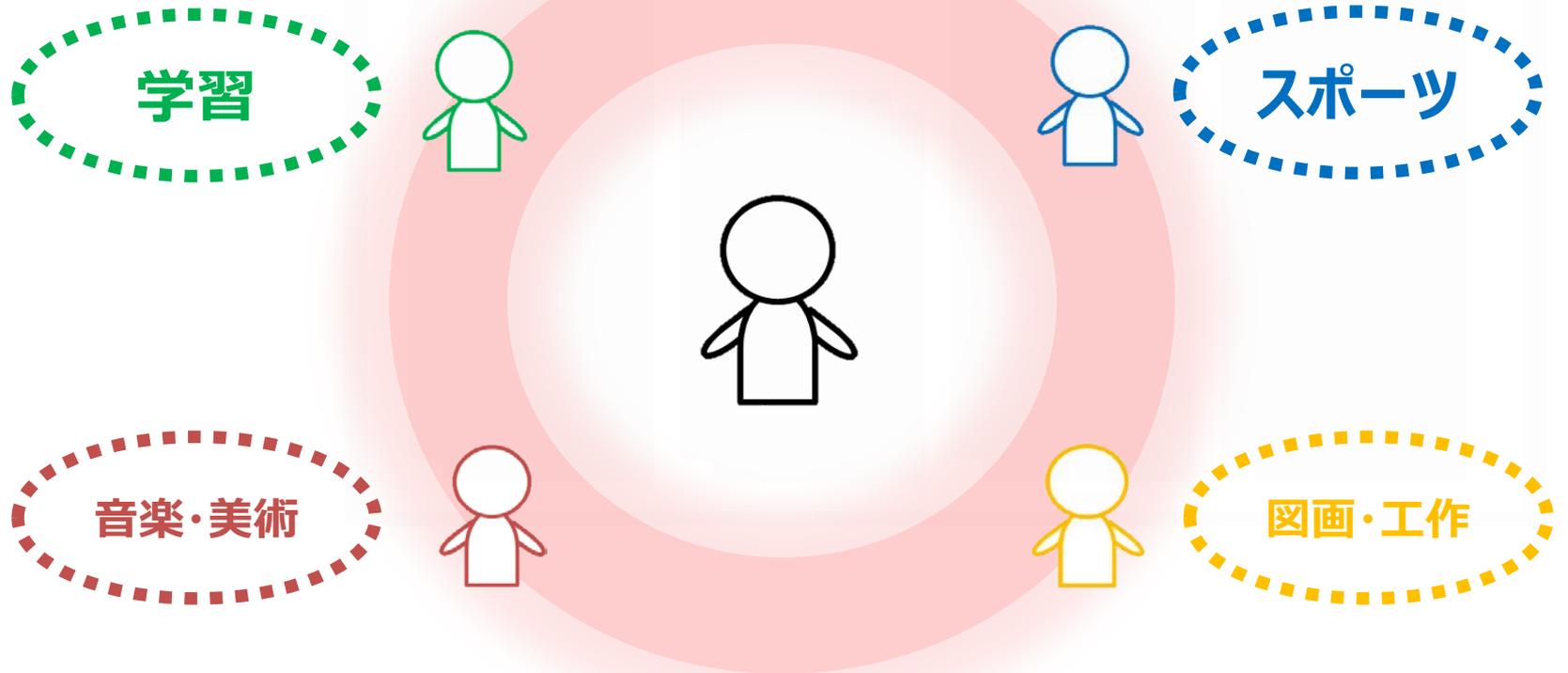
1 友達に関すること

- ① 多くの友達や個性と出会うことができる

2 学習に関すること

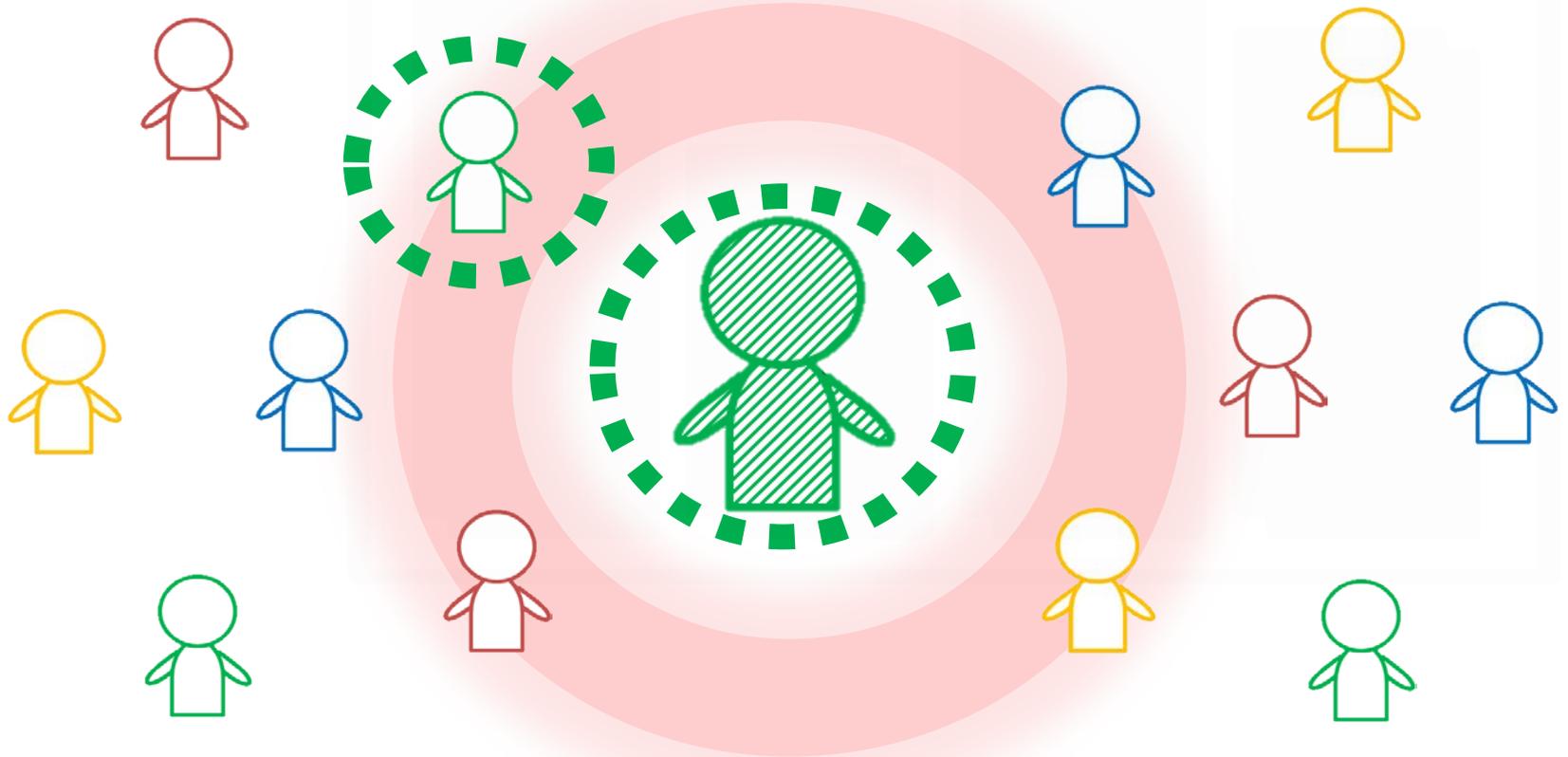
- ① グループ学習が充実する
- ② 子どもの習熟度に合わせた学習が行いやすくなる
- ③ 子ども自身が目標設定をしやすくなる

《 小学校での6年間 》



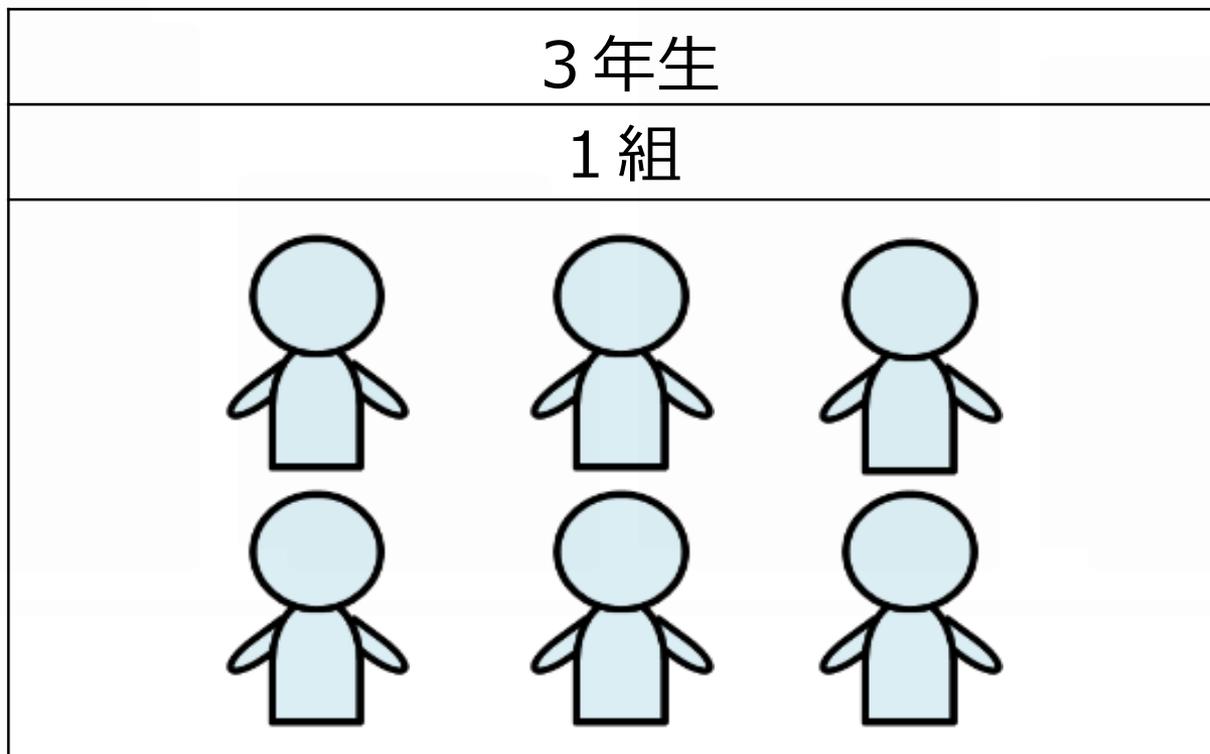
小学校での6年間は、多くの友達との関わりのなかで、
自分づくり・仲間づくり・集団づくりをするための大切な時期です。

《 小学校での6年間 》



1人の友達との出会いで、大きく成長することがあります。
友達が増えると、成長の可能性を広げることができます。

例えば、学年に1クラスだと・・・

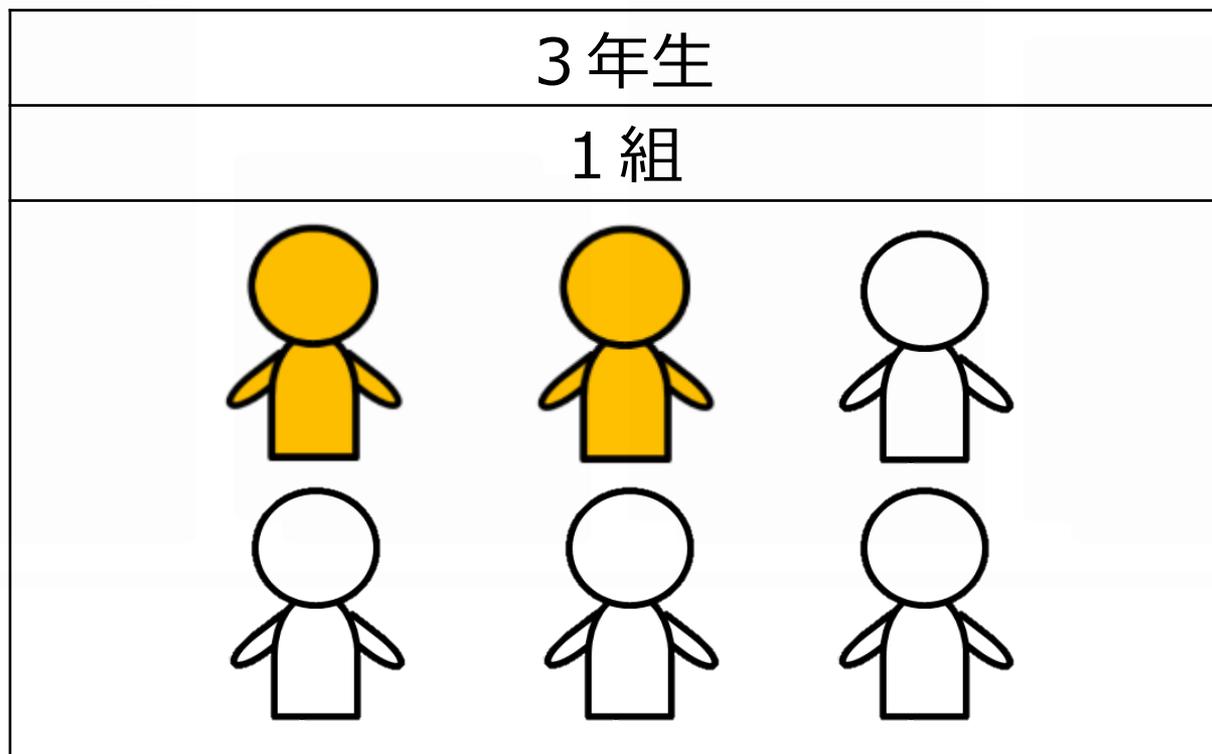


卒業まで同じクラスとなり、

お互いを深く理解できる一方で、

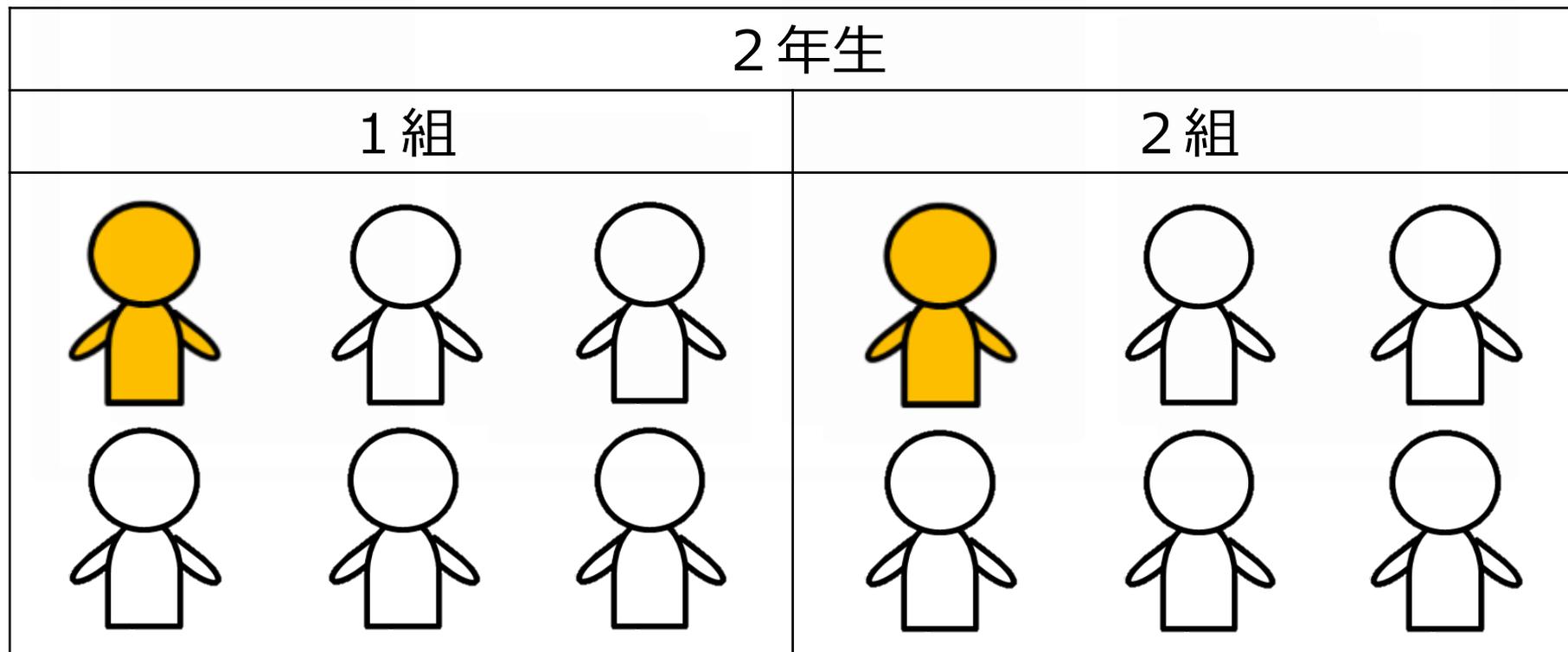
友達と出会う機会が限定されてしまいます。

例えば、学年に1クラスだと・・・



クラスの中で友達とうまくいかなくなった場合に、
関係を修復するきっかけが得られないことがあります。

例えば、クラス替えができると・・・



クラスの友達と関係がうまく行かなくなった場合でも、
クラス替えにより適切な距離を置くことができます。

◆ 児童数が増えると出来ること

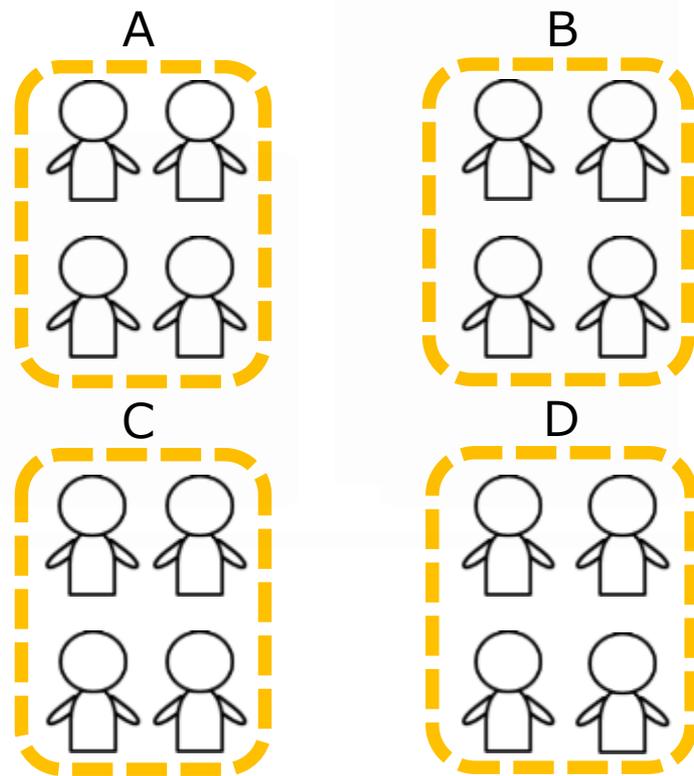
1 友達に関すること

- ① 多くの友達や個性と出会うことができる

2 学習に関すること

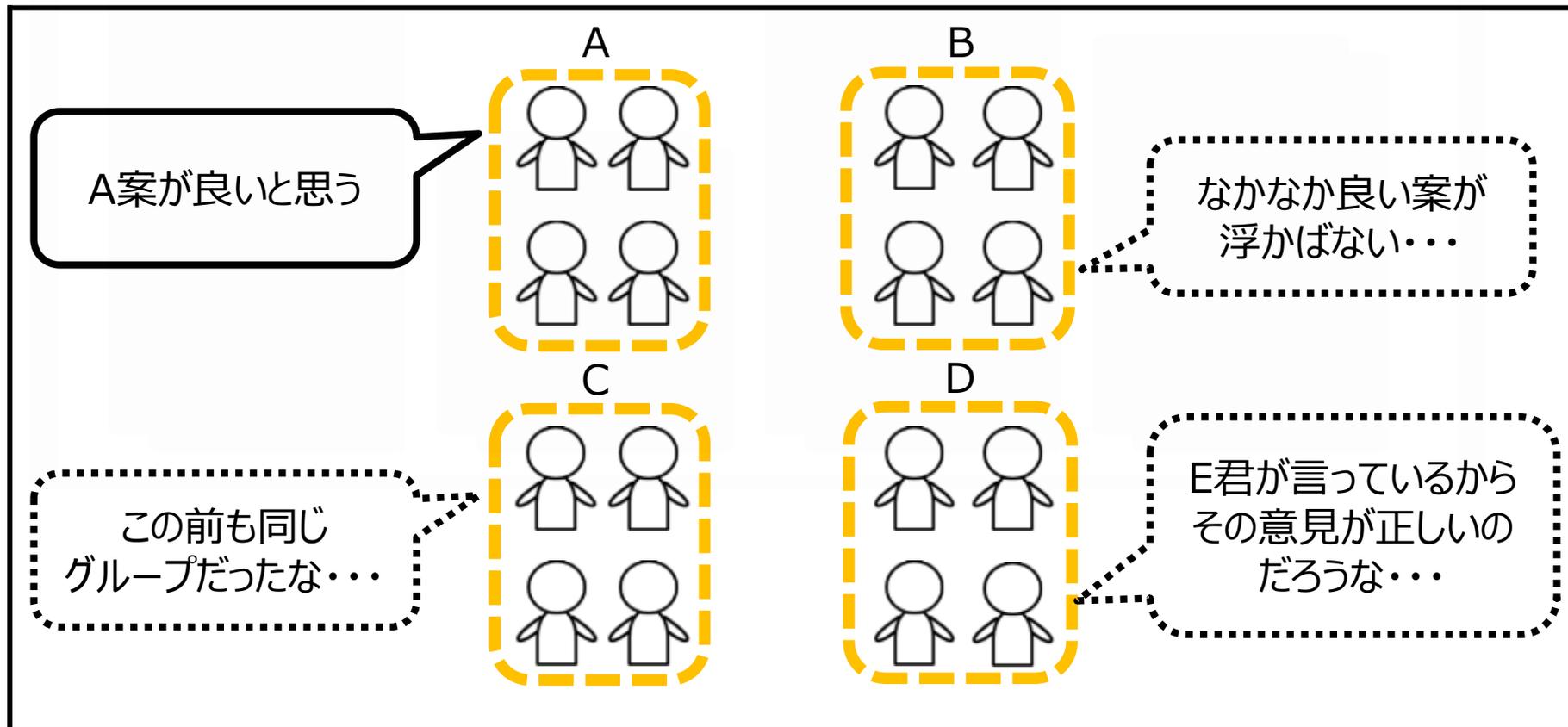
- ① グループ学習が充実する
- ② 子どもの習熟度に合わせた学習が行いやすくなる
- ③ 子ども自身が目標設定をしやすくなる

例えば、人数が少ないと、グループ学習では・・・



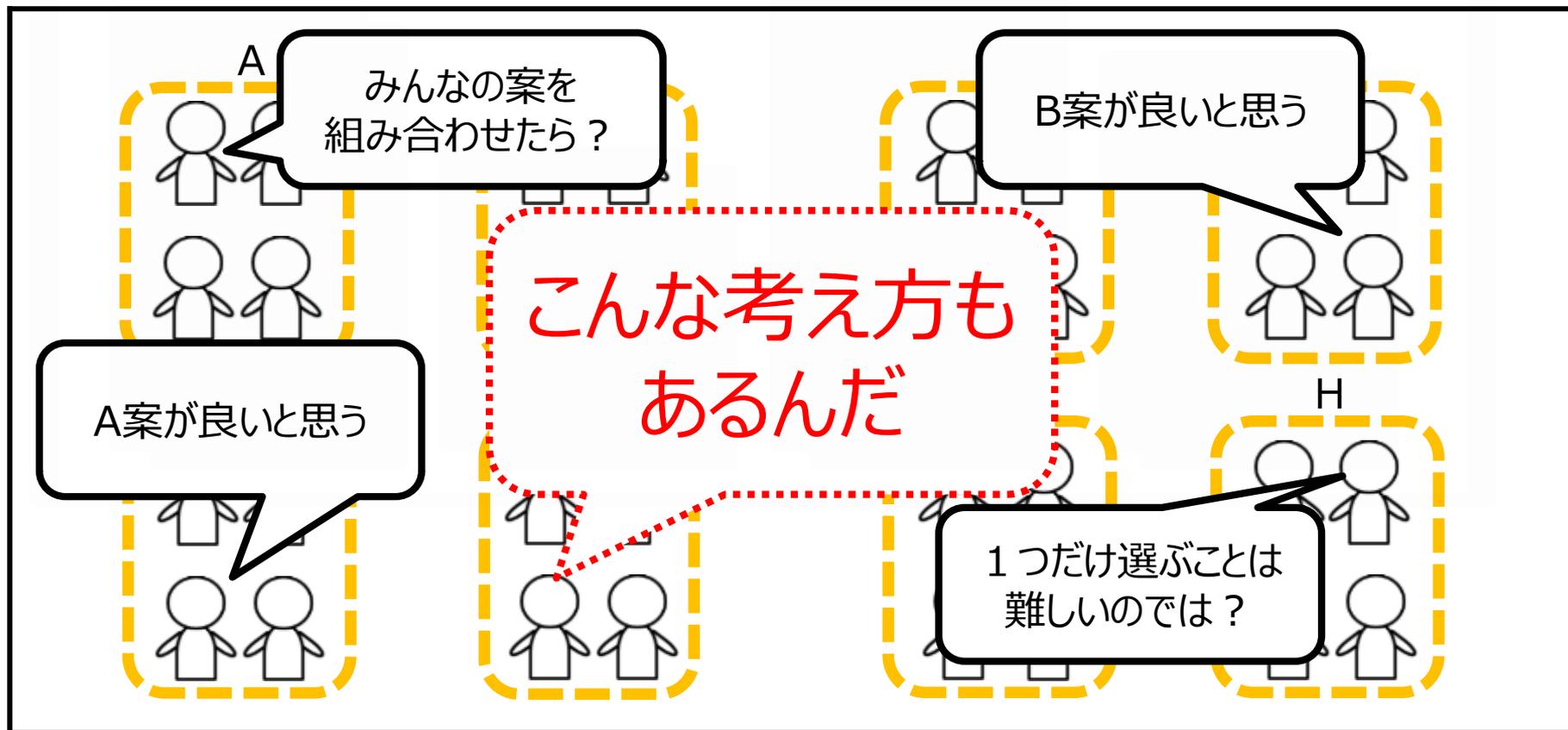
グループの数が限定されてしまいます。

例えば、人数が少ないと、グループ学習では・・・



グループ分けが限定され、多様な意見が出にくくなります。

例えば、人数が多くなると、グループ学習では・・・



多くのグループを作ることができるため組み合わせが増え、学習の幅が広がります。

◆ 児童数が増えると出来ること

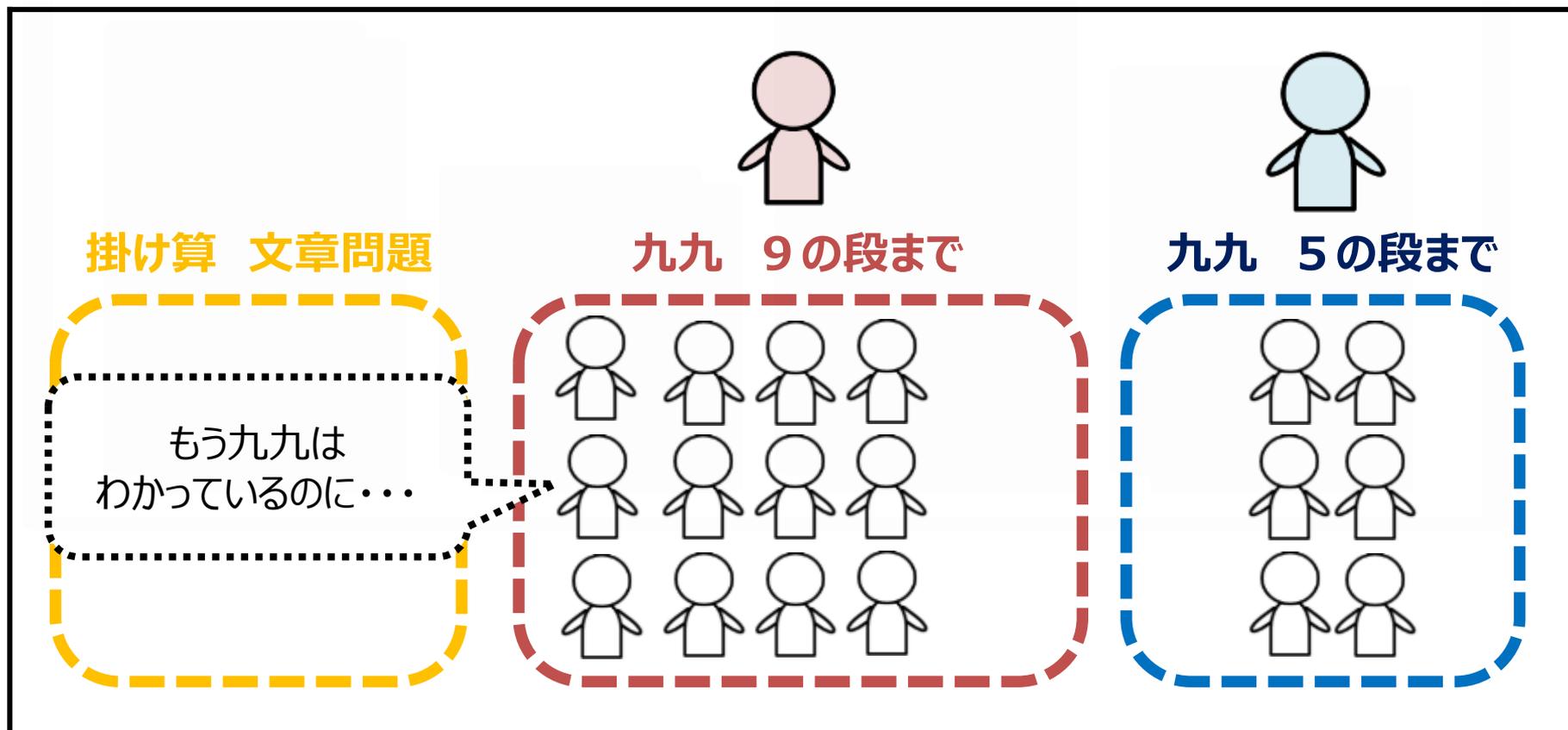
1 友達に関すること

- ① 多くの友達や個性と出会うことができる

2 学習に関すること

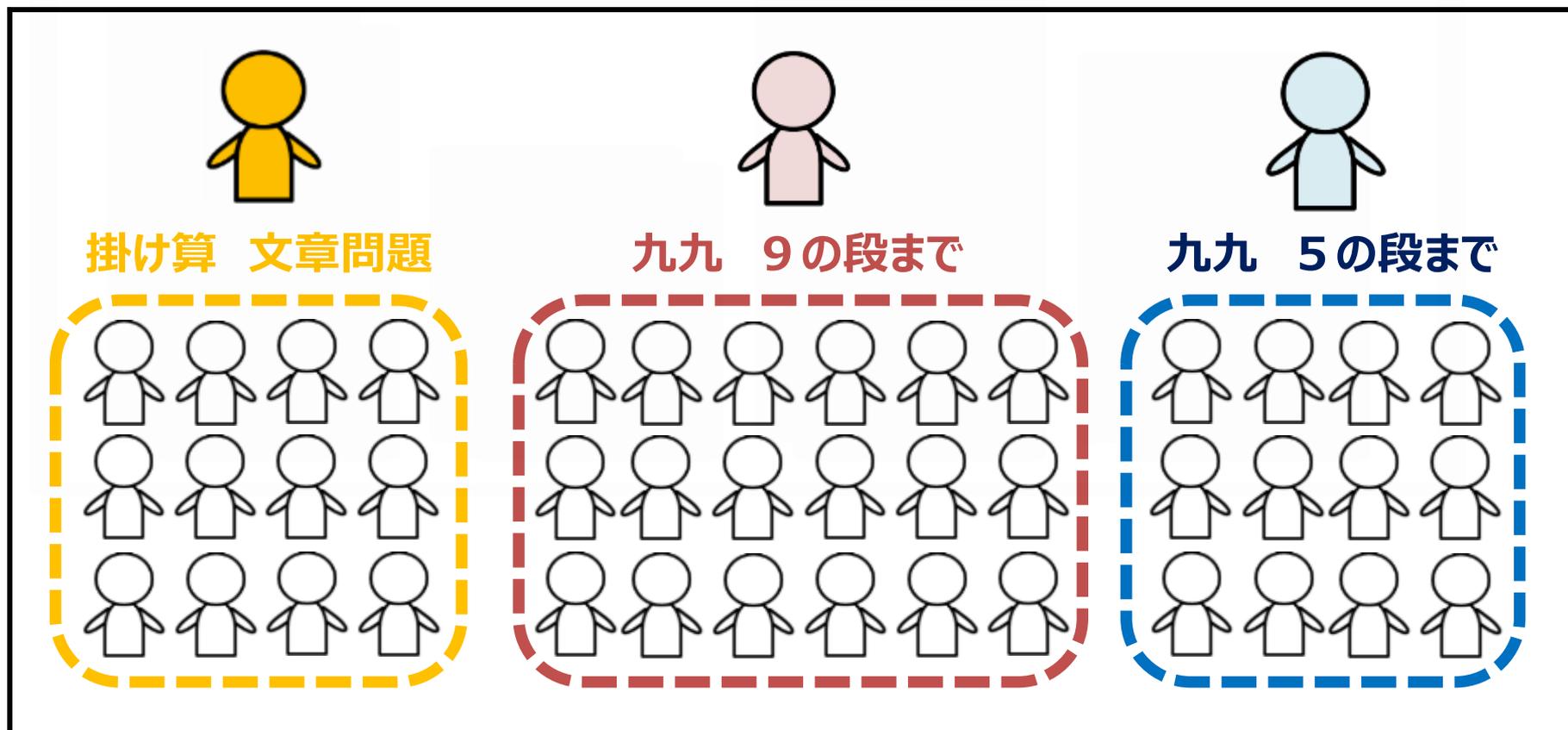
- ① グループ学習が充実する
- ② 子どもの習熟度に合わせた学習が行いやすくなる
- ③ 子ども自身が目標設定をしやすくなる

例えば、人数が少ないと、習熟度別の授業では・・・



児童や先生が少なければ、グループの数が制限されます。

例えば、人数が多くなると、習熟度別の授業では・・・



それぞれの習熟度に応じた指導をすることで、

子どもたちが「わかった!」という実感を持ちやすくなります。

◆ 児童数が増えると出来ること

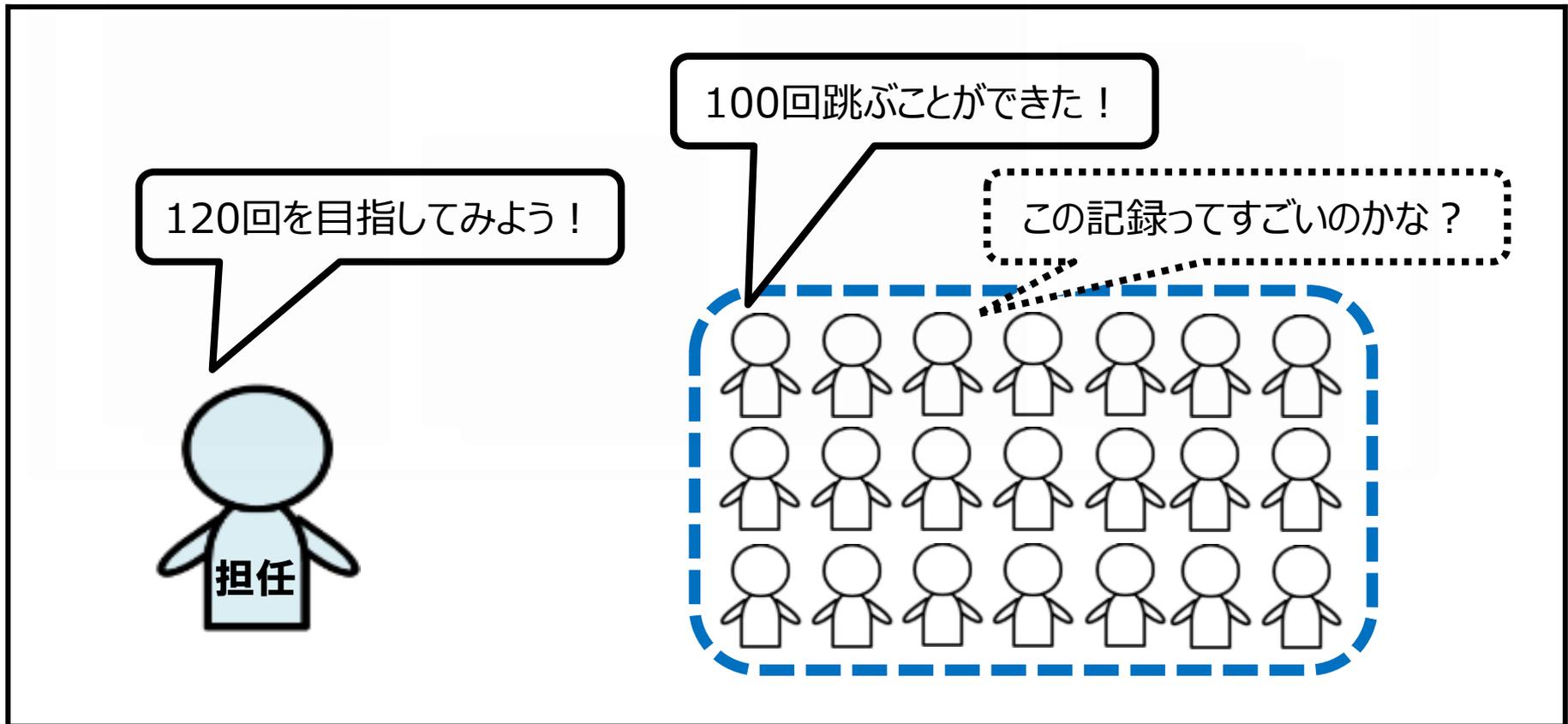
1 友達に関すること

- ① 多くの友達や個性と出会うことができる

2 学習に関すること

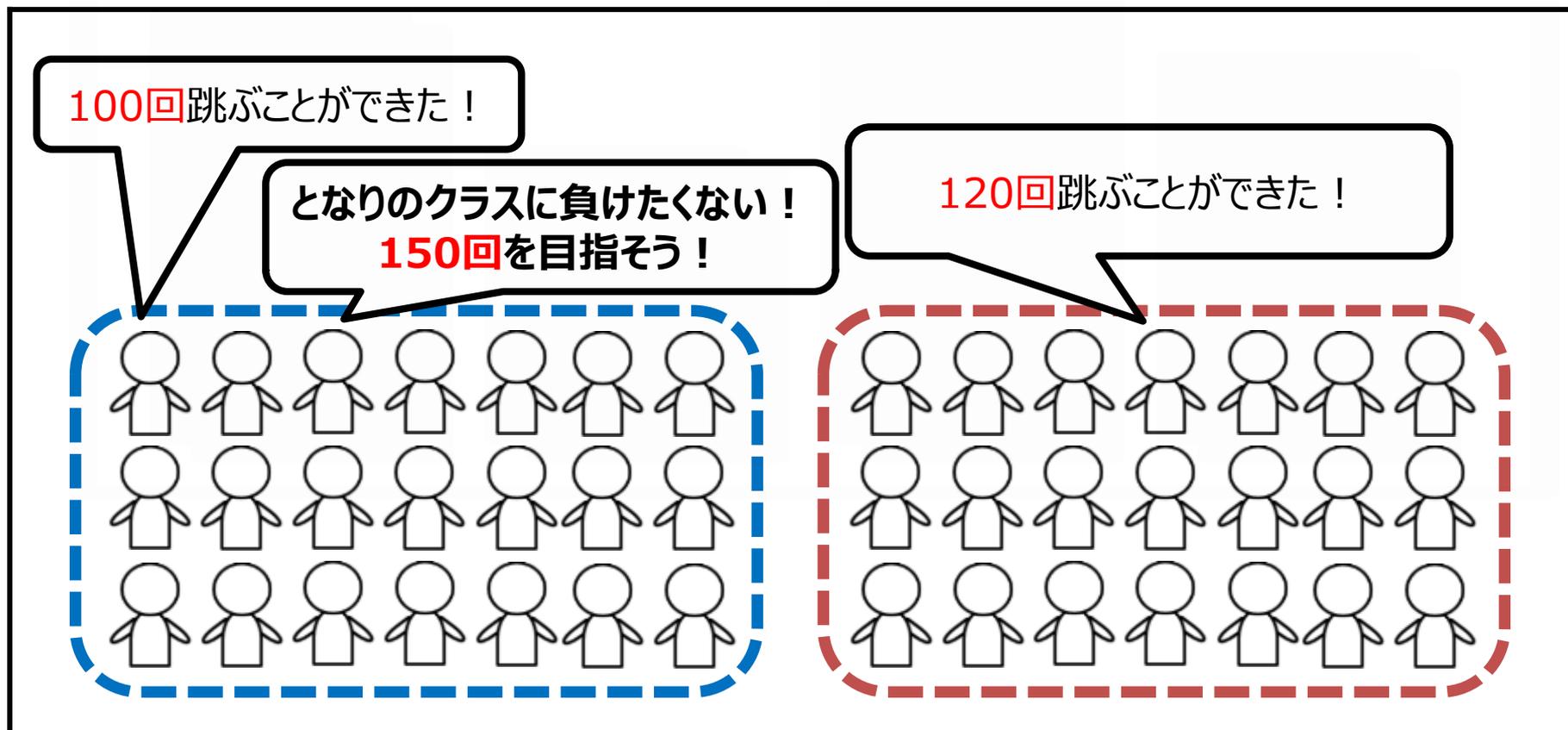
- ① グループ学習が充実する
- ② 子どもの習熟度に合わせた学習が行いやすくなる
- ③ 子ども自身が目標設定をしやすくなる

例えば、学年に1クラスだと、大なわとびの授業では・・・



子どもたちが自ら目標設定することが難しくなります。

例えば、学年に複数クラスあると、大なわとびの授業では・・・



複数のクラスでお互いを高め合うことができます。

子どもたちが自ら目標設定をすることができます。

◆ 児童数が増えると出来ること

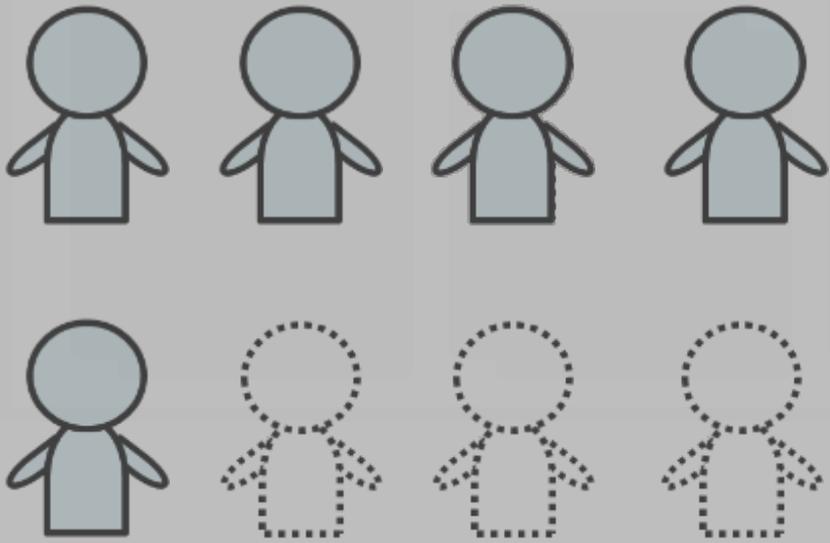
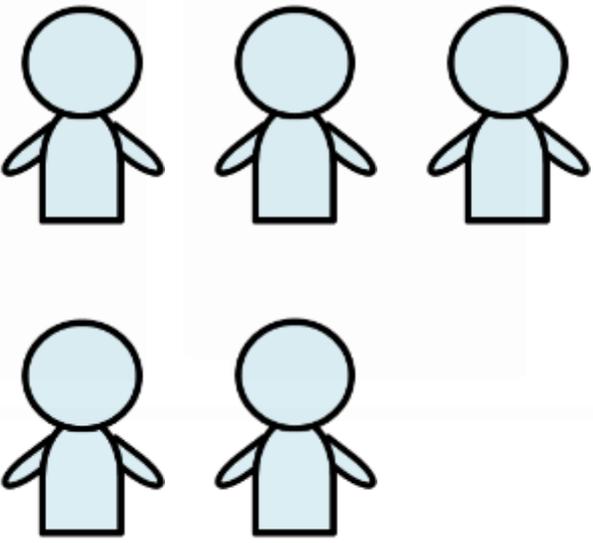
3 行事に関すること

- ① 活動の幅が広がる
- ② 「大勢で作り上げる」経験ができる

4 先生に関すること

- ① 子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ② 学級間の連携ができるようになる

例えば、人数が少ないと、他校との球技大会では・・・

サッカー（8人）	バスケットボール（5人）
	

児童数が少ないと、出場種目が限定されてしまいます。

◆ 児童数が増えると出来ること

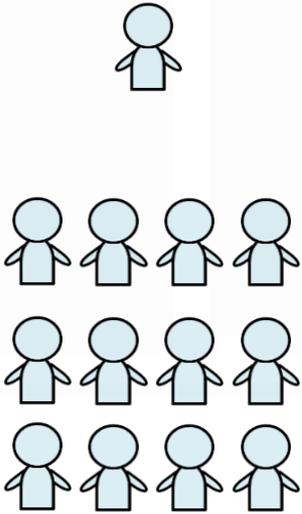
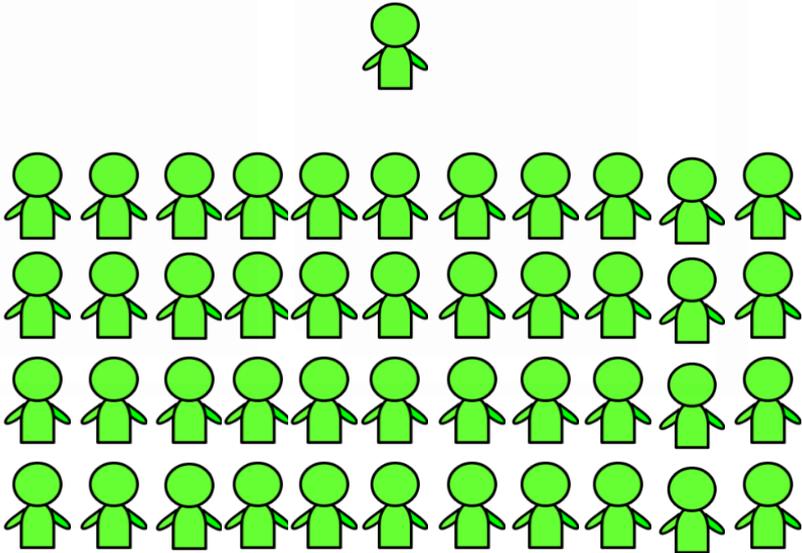
3 行事に関すること

- ① 活動の幅が広がる
- ② 「大勢で作り上げる」経験ができる

4 先生に関すること

- ① 子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ② 学級間の連携ができるようになる

例えば、合唱・合奏コンクールや運動会では・・・

A校（小規模校）	B校（適正規模校）
	

集団で「何かを作り上げること」は大きな経験となります。

集団が大きくなると、達成感や充実感がより大きくなります。

高学年では、大きな役割を果たすことで成長します。

◆ 児童数が増えると出来ること

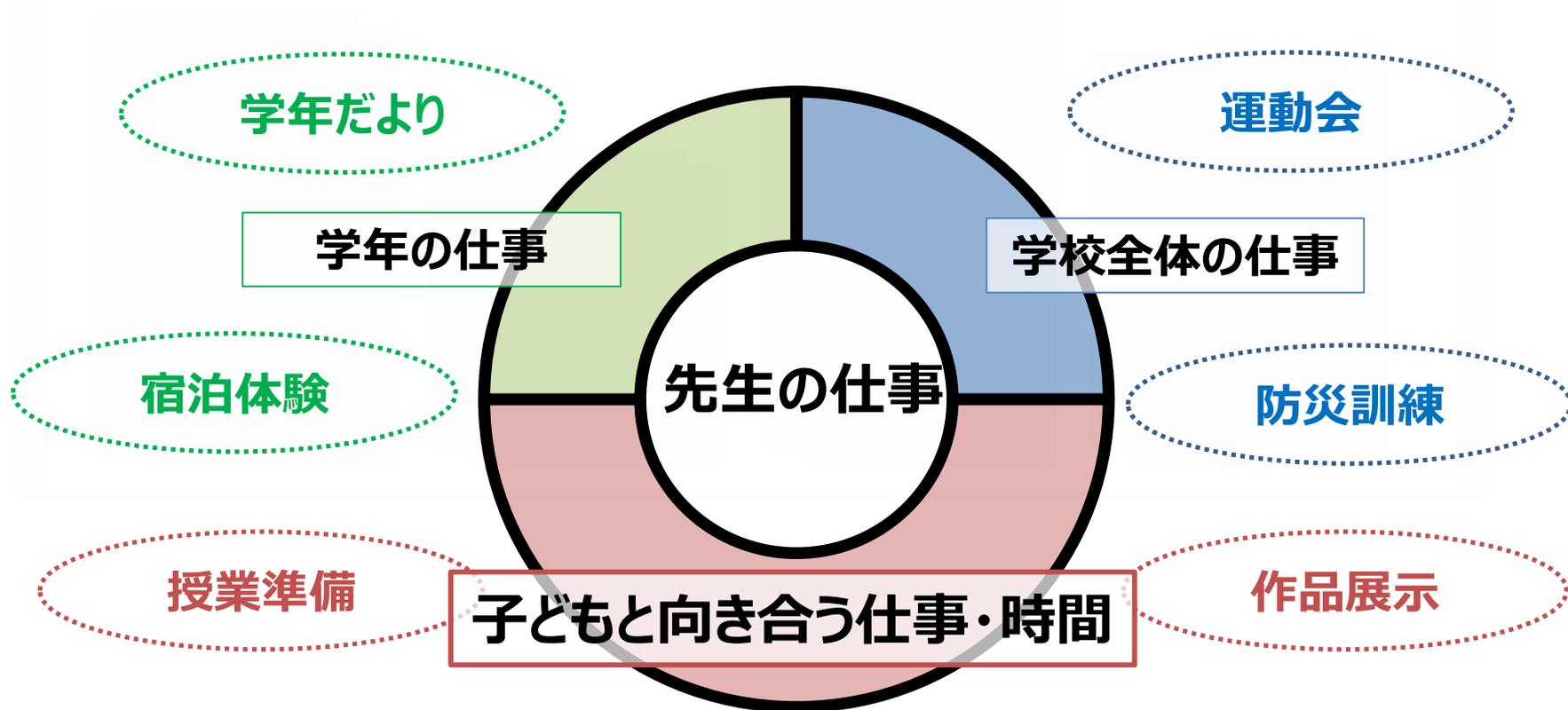
3 行事に関すること

- ① 活動の幅が広がる
- ② 「大勢で作り上げる」経験ができる

4 先生に関すること

- ① 子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ② 学級間の連携ができるようになる

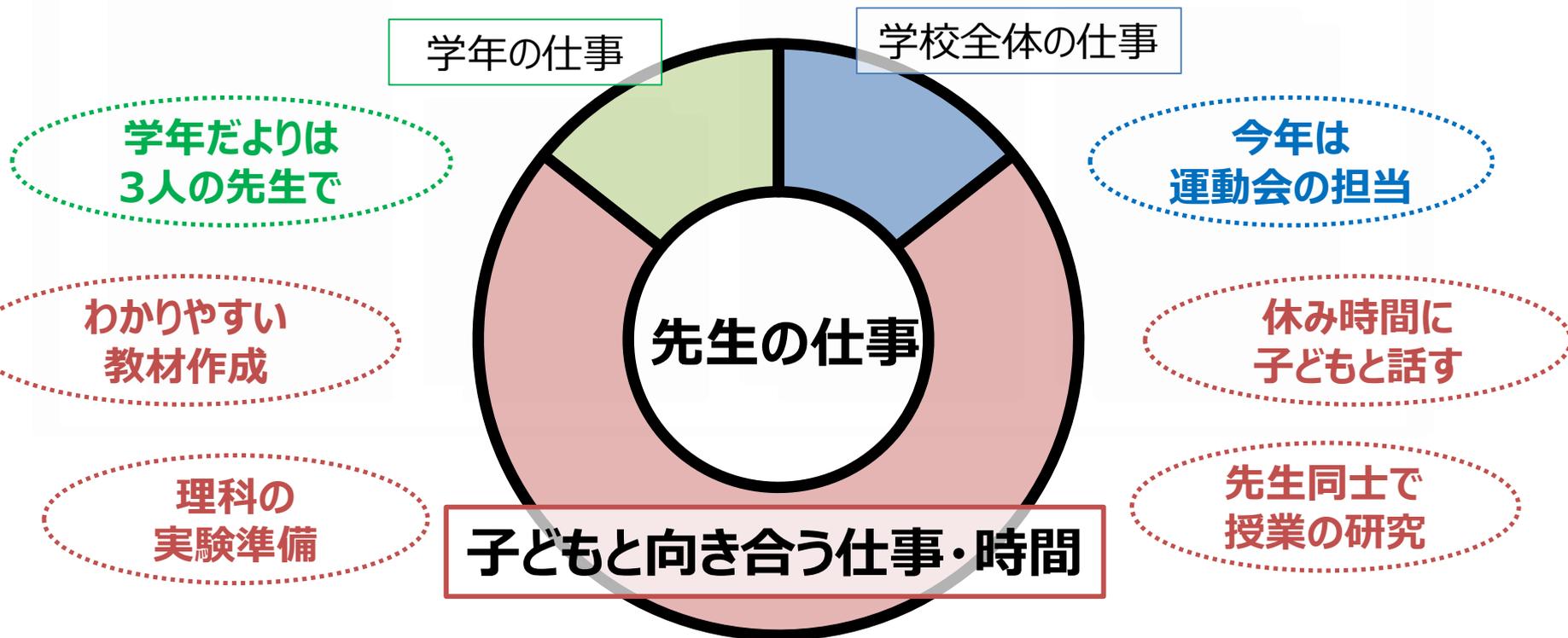
例えば、小規模校の先生は・・・



「子どもと向き合う仕事・時間」が最優先。

「学校全体の仕事」や「学年の仕事」は先生間で分担します。

例えば、適正規模校の先生は・・・



「学校全体の仕事」や「学年の仕事」を分担することで、
「子どもたちと向き合う仕事・時間」を多く確保できます。

◆ 児童数が増えると出来ること

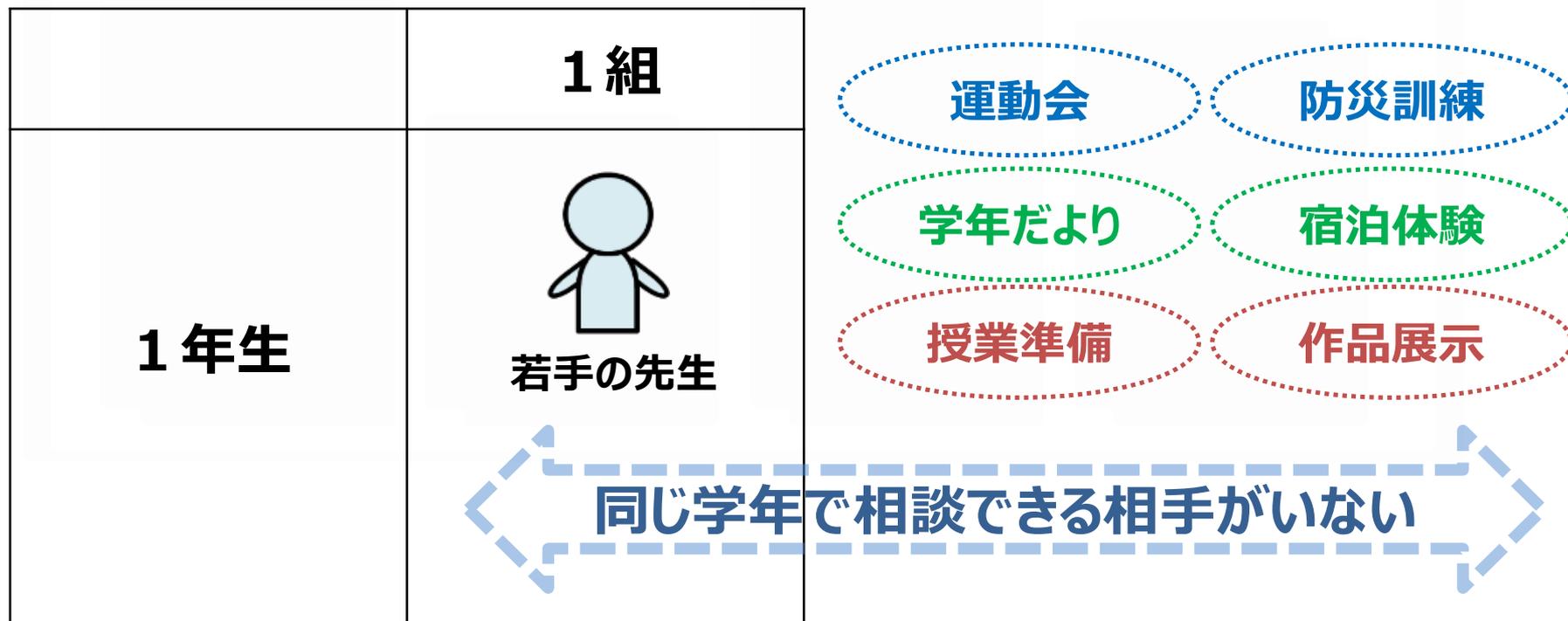
3 行事に関すること

- ① 活動の幅が広がる
- ② 「大勢で作り上げる」経験ができる

4 先生に関すること

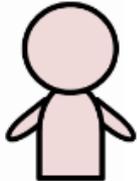
- ① 子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ② 学級間の連携ができるようになる

例えば、学年に1クラスだと、学級間の連携は・・・



学級間で相談や連携をすることができないため、先生個人に負担がかかりやすくなります。

例えば、学年に複数クラスあると、学級間の連携は・・・

	1 組	2 組	3 組
1 年生	 ベテランの先生	 中堅の先生	 若手の先生
 連携して学年を運営できる			

経験や専門の異なる先生が授業を研究し合うことで、

より良い授業を行いやすくなります。

組織的・安定的な運営に繋がります。

2 今後の取組

2 今後の取組

◆スケジュール

- ・ 保護者・地域・学校の代表者からなる検討部会を設置し、
今後の両校の方向性について検討していきます。

検討部会とは…

**保護者・地域・学校の代表者に
委員となっていただきます。**

委員の人数は20名ほどです。

1ヶ月半～2ヶ月に一度、会議を開催します。

検討部会で検討することは…

① 通学区域の見直しによって、
阿久和小学校の児童数を増やせるかどうか



② 学校統合について検討

2 今後の取組

◆スケジュール

- 検討部会の検討経過（内容）については、各回ごとに検討部会ニュースとしてまとめ、阿久和小学校といずみ野小学校の通学区域内の全世帯に配付予定です。

寄せられた御意見については、部会において報告し、議論の参考としていただきます。

3 質疑応答

《問い合わせ先》

横浜市 教育委員会事務局 学校計画課

TEL: 045-671-3252

Eメール: ky-seya2020@city.yokohama.jp

ホームページ :

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/akuwaizumino.html>